

きたたんば ひがしながれ

## 北丹波・東流遺跡

所在地 稲沢市下津丹下田町・下津森町・下津下町西1丁目  
(北緯35度15分6秒 東経136度49分39秒)

調査理由 街路改良工事(都)名古屋岐阜線

調査期間 平成24年10月～平成25年3月

調査面積 2,320㎡

担当者 永井宏幸



調査地点 (1/2.5万「一宮」)

**調査の経過** 県道名古屋岐阜線の街路改良工事業にともなう事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、発掘調査を実施した。調査は、2,320㎡おこなった。調査区は現道に沿って、街路改良部分を対象とした。南北に延びる県道に対して、東西方向を横断する公道などを境に、便宜上A～I区の都合9つの調査区に分けて調査を進めた。

**立地と環境** 遺跡は、遺跡の北東側にある青木川右岸に広がる自然堤防およびその後背湿地に立地する。標高は現況4～5m前後である。遺跡の北方約1kmにある下津蛇池町辺りで、現青木川の分派した旧河川は500mほど南流した地点で大きく西側に屈曲する。この屈曲する左岸に隣接して下津新町遺跡が位置する。下津新町遺跡をまっすぐ南下し、北丹波・東流遺跡を取り囲む広大な后背湿地の北東側を直角に取り囲んで通る岐阜街道は、ちょうど自然堤防と后背湿地の境となっている。

**調査の概要** 調査の結果、古墳時代前期、奈良時代初頭を中心とした古代前半期、平安時代末から鎌倉時代初頭と室町時代後半を中心とした中世、以上大きく3つの時期を中心に遺跡が展開していた。

古墳時代は遺跡の北端と南端から遺構を確認した。北端では、E区で北東から南西方向に延びる幅3m前後、深さ1m超を測る溝が2条平行して、F区で幅2m前後、深さ1mを測る溝が1条、幅4m前後、深さ1.5m前後を測る溝が2条平行して確認した。それぞれの溝間に斑土状の盛土を確認した。出土した遺物から、廻間2～3式の時期と考えている。南端では、南北方向に2条の溝をA区で確認した。

古代の遺構は、ほぼ調査範囲全域で確認した。そのうち、Fa区で確認した南北方向の溝は幅3m前後、深さ約0.8m前後を測る。焼土、炭化物に混じり、「美濃」施印須恵器鉢をはじめ大量の須恵器・土師器が出土した。D区の溝では人名の刻書須恵器が出土している。

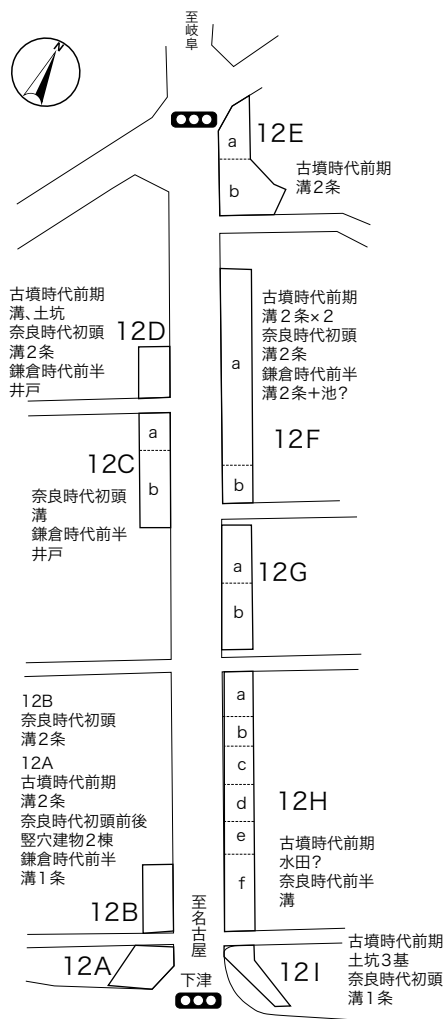
鎌倉時代前半を中心とした遺構は、A区で溝1条、Da区で井戸2基、Fa区で溝2条などを確認した。Da区の井戸は、井戸廃棄に伴う祭儀がおこなわれているようで、井戸枠より下位の基底部に碗皿類と拳大の川原石が敷かれていた。Fa区の溝は東西方向に延びる幅4m前後、深さ1.5m前後を測る大溝であった。一般的な屋敷地を区画する溝ではなく、堀を想起させる規模である。(永井宏幸)



「美濃」施印須恵器鉢



Eb区古墳時代前期溝2条



Fa区中世の遺構調査状況



Ca区鎌倉時代前半の井戸祭祀